

消費地理研究の一側面としての家計豫算

淡 川 康 一

凡そ人類の消費生活は、色々の要素によつて影響されるのであるが、其の氣候的環境が、人類消費の分量及び性質に及ぼす作用も、決して之を軽視し得ないものがある。かく見来れば、人類の経済生活は、自然経済的性格を帯びるものとも考えられるのである。従つて、家計予算と云うよりも、むしろ経済計算と云う表現こそ、最も適當なものと為し得るのである。この小稿は、かかる見地に立脚して、ビュッヘル (K. Bücher) 著「国民経済成立起源論」第二集中の一論稿「家計予算か経済計算」かに所論の骨子を仰ぎ、平素読書せるものを補綴して、其の大意を紹介し、消費地理研究の一資料に供せんとするものである。

頃日、今はなき、フランクフルトの市井学者・ゴットリーブ・シュナップアルント (Gottlieb Schnapper Arndt) の講演及び論文集が、公刊されたのである。其の書籍は、余に於いて、悲しき追憶を喚起するに至つた。曾て余に個人的に接近した著者への記憶、稀に見る忍耐を以つて、狭く限られた目的に捧げられた、彼の学問上の畢生の事業への追憶、永久に私の意識に沈潜する為の、独得の努力と経験への記憶、是等の追想は、今日私の脳裡にさまよいつつある。而して、其の論文に続く為の、カール・フォン・カー (Karl von K.) の経済計算 (die Wirtschaftsrechnungen) は、是等の記憶を再生せしめるのに、本質的に役立つたの

である。かくして、経済計算は、彼等の記憶に關聯し、又その記憶への、云わば緒言の一種として、此処に再び簡単に再現せしめ度く思うのである。

會て、私に、当時のフランクフルトの同僚であった
処のルードヴィヒ・エルスナー (Ludwig Oelsner)

が、彼の知人の一人について、話してから、今日丁度三十年経過したのである。その人は、私を個人的に知りたいた、而して、彼の研究の為に、私に質問したいと云う切実な願望を有していたが、然し病氣の為に、私を訪問することが出来なかつたのである。私は進んで、その同僚の望に従い、私と同年の、一人の若い男を見出したのである。その男は、足の疾によって、数年間、室へ束縛はされないか、然し彼の自由なる運動に於いて、強く妨げられて、特に規則的に通学することが、

妨げられて了つたのである。ゴットリーブ・シュナッパー (Gottlieb Schnapper) は、私の研究によつて、文学及び語学に於いて、著しき知識をすでに得ていた。最近に至り、国民経済学及び社会主義の古典的な

消費地理研究の一側面としての家計予算 (淡川)

著作をも亦、熱心に読したのである。或る温泉地滞在を機会として、彼は高いタウヌス地方 (Taunus) に於ける、家内工業的色彩の強い諸村落の潛行せる窮状を識つたのである。而して、初めには、彼の豊富な余暇を充す為に、次には、常に湧きつつある処の、内的の同情から、彼女、彼及びその裕福な町の子供にとつては、極めて物珍らしい、簡単な生活についての記録を作り初めたのである。さて、農民無産者の生活の是等の微細面に一の科学的の性格を、又彼の調査に、一の統計的の基礎を、支えんとする欲求が、彼にとつて、切実なものとなつて来たのである。そこで、彼は私の忠告を求めた。

シュナッパー (Schnapper) は、すでに、ル・プレー (Le Play) の論文については、知っていたし、又彼の意義に於いて、研究せんと努力したのであった。彼が典型的と為し得ると信じた処の家計予算の組立に際して、彼は諸困難に遭遇した。ル・プレー (Le Play) は是等の困難を注意しなかつたのであって、是

は純然たる計算的性質の困難である。単なる簿記上の問題である。其の問題について、彼は国際統計協会のブタペスト(Budapest)の会議に於いて、報告したことがある。私は、彼に知られざる、白耳義の労働者予算及びその、エンゲル(E. Engel)による、一層進んだ研究を指示したのである。その研究方法を、私は、より精確なものと思ったからである。而して、彼の健康状態が良くなった時に、伯林に於いて、国民経済学及び統計学の計画的研究に着手し、又エンゲル(E. Engel)の研究室へ入ることを誘致したのである。休暇になると、彼はタウヌス地方(Taunus)の諸村落に於ける、彼の調査を継続した。而して、其の際、彼が遭遇した処の、色々の、小さい困難と疑問とについて、私と共に論議したのである。

一個の貧しい、全体の消費を、総ての、その部分に於いて、統計的に把握することの職能は、「労働者予算」を立てたことがある処の、多くの人々に思われている様に、容易ではない。シュナッパー(Schnapper)

は、物に徹する性格の持主であり、其の徹底性は、彼の友人達を屢々疑問へもたらすに至り、而して、彼の研究の進捗を極めて困難ならしめたのである。

彼のライフェンベルグ(Riefenberg)の日常生活を初めた処の、総ての物に対して、彼は興味を有し、その地方の、極めて単純な人々に、彼等が未だ曾て一度も考えたことがない様な事柄、自身何等答弁説明を与え得なかつた様なことを、質問したのである。而して、是等総てのことは、計数的表現へもたらされ、一の追加能力ある予算の項目へ、圧縮さる可きであつた。吾人は、縦令、質問者と被質問者との間の、相互間の誤解を排除し得ると仮定しても、是等の調査には、次の様な欠陥を伴うのである。即ち、シュナッパー(Schnapper)自身が、彼の「調査主体」の生活状態についての、又、彼等に存在する可能なことについての、実際上の見解と経験とを持っていなかったのである。為めに、彼等の答に対する、直接批判の手段が、欠けていたのである。私は次のことを想起する。即ち、彼

が七人の大人の一家族の日常に於ける馬鈴薯の消費に對して、その家族の陳述に應じて、一定の重量を、その予算の中へ組み入れたのである。其の一定の重量を、私は独りで絶えず食い尽すことを申出でた。而して、私が彼の面前に於いて、私の家婦の台所の計量器の上で、その指示された量を計った時に、彼の奇怪な誤りについて、私は初めて確信せしめることが出来たのである。彼は、数週間を通して、殆ど毎日午後早々私の家へ来、而して、夕暮が迫る前に、稀には私方を辞した。情報員を現場で持つことなしに、個々の項目の數間に亘り、其の客觀的正当性を検討することは、殆ど疑に近い職務であつた。

シュツナツパー (Schapper) は、彼の調査方法を改良する為には、何等の努力をも、不愉快なことと思わなかつたのである。秤は、彼にとっては、一の、重要な補助道具となつた。彼は、私の忠告に應じて、彼によく知られた処の家族をして、繼續して、その消費の或一定の部分についての記帳を、為さしめたのである。

而して、私は、彼に半分冗談気味で、一の田舎のภายใน工業の家計を理解せんと欲するものは、向う二三個月間、その家族と同居してのり込み、その食事時間を共にすべきであることを注意した時に、彼は、其の指導を真面目に受け容れたのである。為に、一人の時計工の生活状態の中へ進入する為に、シュヴァルツヴァルト (Schwarzwald) に於いて、かなり長く滞在したのである。其の滞在の成果は、主として、改良された、ル・プレー (Le Play) の方法で作上げられた処の、一人の時計甲画工の予算であつて、之は「国家科学雑誌」の一八八〇年間に公表されている。シュツナツパー (Schapper) は、彼が自から其の緒言に於いて公言している様に、すでに、「一家族の全体の、經濟上の地位が、唯一の數字に於いて約説され得ると云ふこと」の希望を、断念して了つたのである。而して、むしろ、次の様な見解を採るに至つた。即ち、個々の欲望の範疇に於ける、消費の表現は、裸の貨幣価値の數字によつては充分ではない。統計上の精確性は、先ず第

一に、消費された処の量及び物財の出来るだけ精微な計上に於いて、理解する可きこと、而して、数字が充分でない時は、記述を以って、之を補充せなければならぬ。」

故に、単に家計のみならず、又全体の生活状態について、或一定の収入をもたらすものの、出来るだけ忠実な描写を行ふこと、之である。この結果に対しては、彼は、断念を以って、信奉せねばならなかったのである。ル・プレー (Le Play) に対する区別は、余り大ではなかった。ル・プレー (Le Play) にあつても亦、労働者家族の、田舎に於ける、或一定の収入が、如何なる生活標準を可能ならしむるかを、決定することが、その眼目であつた。彼は平均数を得んことを努め、而して、かかる立定に対して、終局には、又予算と云う名称が、是認されるのである。シュナッパ (Schnapper) は、之に反して、現実の収入及び支出が、或一定の、最近に過ぎ去つた期間の間に於いて、決定されるであろうことを、重視したのである。然し又一方

に於いて、彼は、若し個々の報告が、家父及び家婦の、可及的突き込んだ質問によって、報告されたならば、之を充分であると思惟した。而して、被質問者の、独自の記憶には、高々、第二義的の統制手段たるの意義を認めたと過ぎなかつたのである。

「予算」は、故に、ル・プレー (Le Play) の予算を立定すること以外の何物でもなかつた。蓋し、予算は、大部分、被質問者の記憶から確定された故に、是等の被質問者が現実に消費してつたものを、精確に再現し得ずして、却つて、彼等にとって、正常と思われたものを消費することを必要と思惟したものを、表現する結果となるのである。支出の中の、最も重要な項目、特に食糧支出に対する項目は、計算によって、直接に報告された週支出又は月支出を基礎として、見出されたのである。縦令月支出が、試験的の記入及び規定によつて、最も精確に決定され得たとしても、貧家の家計に於いては、一の月は他の月に等しく、又一の週間は他の週間に等しいと云うことは、依然として永

久に純然たる虚構であろう。而して、自給自足の農家
経済に於いては、収穫された農産物の実物消費に、着
眼すべきである。

尙一九〇一年に、シュナッパ（Schapper）は、
次の様な報告をもっている。「釘の鍛冶工の予算
に於ける、私の關係する計算の基礎を、その男の土地
所有に關する土地台帳からの抜書きが、形成したので
ある。彼の耕地及び其の收入に關する、詳細な記述は、
次の如くである。即ち、かかる記述の正当性は、色々
の支払能力ある階級に於ける、収穫の結果についての
専門的知識の見積りを考えに入れることによって、調
整し得るのである。」。

小さい農家の副業の個々のものについて、何等かの
觀念を有するものは、かかる処置を如何に考えるか、
而して、当該「予算」の記事を、否定的態度を以って、
精査するであらう。それは、彼の釘の鍛冶工が、その
田舎に於いて収穫した処の燕麦、大麦、馬鈴薯の各疋
各野菜及びキャベツの頭、豆、セロリ、蝦夷葱の、各

々の一人前当りの分量が、実物の分量及び貨幣価値に
応じて示されている場合である。費用の計算は、遺憾
乍ら、報告されていない。費用の計算は、吾人をして、
したたか汗をかかしめた。労働給付及び一日中に於け
る、仕事の区分の給付の各時間、各々の肥料の積荷、
必要な種子、副産物の利得等、是等総てのものが、精
確に報告され、且つ評価されたのである。多くのこと
は、私にとつては、私の、農家の青年時代の経験によ
れば、疑わしく思われたのである。而して、シュナッ
パー（Schapper）は、新しくされた要求によって、
私の熟慮を高めることに倦まなかつた。然し、若し吾
人がかかる錯雜せる計算の、総ての項目を彷彿とさせ
るならば、其の場合、「精微」の過度は、陥穽になる
に過ぎなかつたのである。是等万事を考慮して、會計
計算すれば、其の、一の予算を立定することは、たし
かに、著者に一年以上の労力をかけしめるに至つた。
又後に、一人の、女の仕立屋の家計に対して、彼に依
つて立定された予算は、尙一層多くの労力を費さしめ

たのである。

時間上の、かかる出費は、次の様な人々だけが、耐え得る処であろう。即ち、其の、最も貴重な、人間の財を、自由に且つ妨げられずに、物質的給付と職業の義務によって駆使し、而して、無邪気に於いて、他人の、貴重な時間をも亦、可能の最大限まで要求した人、之である。彼の研究熱の犠牲に對して、統計学の学識ある学徒をして、少し欺くべきことに、如何なる試みが、横たわつた事であろう。その学徒は、あらゆる細かい事柄を書き上げ、之を表に現わし、又日々其処の壺の中へ入つたものをも亦、面倒にも測定したのである。あらゆる下着及び前掛けの価値と、その使用期間を知らんと欲した。きやらこの着蒲団は、尙十年間使用に耐える。彼女に一人の顧客から贈られた痰壺は、一馬克の値がある。彼女の自から編んだ、黒色の、羊毛の、冬の手袋は、八二ペニヒ、而して約六年間の使用期間を有す。彼女が、その日曜日の散策途上拾い集めた処のかみつれ及び纈草は、四二ペニヒを以つて、

其の収入の中へ加算さるべきである。又少しばかり送られた、水色の洗濯用の糊は、三ペニヒを以つて、加算されなければならぬ。統計学に對する高い尊敬、然し其の限界は、何処にありや。彼女の下着、手拭を繕う際に、三〇ペニヒに對して労働を給付したとすれば、何故に次の様な労働は評価されていないのであるか。彼女は、その労働を、彼女の靴を磨くことに對して、又其の下着を洗うことに對して、用いたのである。而して、吾人は、入浴、整髪、爪切等に對しても、夫々の項目を入れ込むことが出来ないものであるうか。

私は次のことを疑わないのである。即ち、シュナツパー (Schapper) が是等総ての問題を提出し、而して、彼に独特なる論理的鋭さと根本性とを以つて、熟考するに至つたのである。私が一八八一年の初めに、フランクフルト (Frankfurt) を去り、かくして、吾人の往来が断えた以前に、彼の研究は、その師エンゲル (E. Engel) が立脚していた処の消費統計の根底を、

すでに失うて了っていたと云う印象を得ていたのである。而して、私は彼に次の様な、私の確言を、披瀝せざるを得なかつた。即ち、国民経済上利用し得る処の成果は、唯注意深く永年に亘り記帳された家計簿に立脚してのみ得らる可きものなりと云う確言、之である。然し、彼は、ル・プレー (Le Play) の思想の領域及びその、彼によって最も細微に完成された処の方法に深く集つて了っていたのである。為に、彼は、年数の永い系列に亘つて拵がりつつあり、面倒な注意を以つて記帳された、一人のピアノの教師の家計簿を、一度も研究せなかつたのである。是等の家計簿は、むしろ彼の等閑視した処である。

五個の村落自治体がシュナップバー (Schapper) に次の様な機会を与えたのは、一の幸福である。即ち、それは、かなり大なる精細統計上の研究を、一層広い基礎に亘つて遂行すべき機会であり、而して、かかる試みに対して、科学的事実確定の、一の模範を与うべき機会、之である。其の模範は、僅かの人々によって、

彼の後に凌駕されたのである。然し、遺憾な事には、彼等は、彼の後の研究領域を、拡大するには至らなかつたのである。魔力的力を以つてする如く、それは、彼を依然として、家計予算の軌道範囲へ引き戻したのである。かくして、社会統計上の緻密描写の範囲へ引き戻したのである。其の緻密描写に於いては、彼は殆ど第二の人によつては企及し得ざる巧妙の域に到達したのである。文書を研究し、文献を漁り、ベニスゴンドラの舟夫、フィエゾーレの麦稈細工人、チュニースの荷物担夫、シリアの硫黄鉱山の子供等に、夫々徹底的質問を發し、かくして得られた処のものが、予算の断片だけであつたとしても、文化史的の素描として、興味を惹かれるのである。彼等の上に横わる処の温い倫理的香りは、全集の「講演及び論文」の読者に、人間としても亦、著者を愛せしめるであらう。若し、彼の伝記が、彼に就て、「科学的評細は、彼にとつては、若干の専門学者に於ける如くに、自己目的とはならずして、唯単に大なる關聯の包括的認識へ至る手段とし

て見做される。」と云うならば、吾人は、之を疑問視せざるを得ないのである。而して、吾人は、「社会的微細絵画は、若し其がかかる完全を以て遂行される場合には、それ自体すでに充分に功績があるのではないか。」との質問を發し度いのである。

吾人は、唯他人によつてその質問方法に依じて計上された家計予算と、シュナップパー (Schnapper) の家計予算を比較しさえすれば、よいのであつて、其のことによつて、後者の価値を評価することが出来るのである。凡そ予算研究が流行するに至つたことは、何等不思議なことではない。余がミュンヘン大学の講師たりし時、即ち一八八一年に、一人の極めて有益な、着想に富む処の、経済学の記者が、十篇の労働者予算を持つて來たのである。彼は、是等の予算を、その妻の補助を以て、独逸の、色々の都市に於いて立定せんと欲したのである。而して、余の判断を乞うたのである。余は一見して、総てのものを、価値なしと宣言したのである。蓋し、総ての項目が、五二を以て、残

りなく分たれていたのである。その草案者が私の判断を特別に評価せなかつたことは、私をして、やがて次の様に意識せしめたのである。即ち、彼の予算が、一の認められた學術雜誌に公表されたのである。一八七五年、独逸農家の集会の、有名な調査に於いて、二九四の立定が公表されたが、是等の調査は、次の様な簡単な質問に依じて、成立したのであつた。即ち、「吾人の、一の田舎の労働者家族の食料、被服、住居、燃料、照明費、国家及び地方自治体、教会及び学校へ支払う租税及び其の他の支出についての要求が、貨幣に於いて、如何に高く評価される可きであるか。」の間である。然し、独逸の都市統計家すら、彼等に捧げられた調査手段を以て、到る処、「労働者予算」を獲得することが出来ると思つたのである。私は手記的に、尙かかる立定の二三を持つており、是等はミュンヘンの都市統計局に於いて成立するに至つたものである。私が後にバーゼルで教授として国民経済学、統計の演習を担当すべき機会を持つた時に、その対象は、私

にとつては、統計技術の方法的詳細の精研が適する様に思われたのである。かくて、暫らくしてから、私は公共的連盟を動員して、労働者家族についての家計簿を分布し、それを注意深く記帳することに対して、賞金を出す様に努力したのである。若し家族の首脳者が、その家族の収入に対する支出の割合についての、数字による概観を得るならば、都市労働者家族の家政の整備に対しては、現今尙極めて多くのものが得られると思うのである。このことは、よく整備された家政の実証する処である。かかる経済計算のみが、需要の群団に応じて、一年の立定の基礎に供せられるならば、統計に対しては、無限に多くのものが、期待されるであろう。統計のみが、色々の国民階級の、事実上の需要形成への現実の洞察を、支えることになるのである。

エルンスト・エンゲル (Ernst Engel) が、慣れた明瞭さを以って、消費統計の科学的目标及び技術上の方法に於て、意見を發表した後には、其の問題に関しては、今更、多言を費す必要はないのである。廿年以

前に、総ての、私の努力は、エンゲル (Engel) が命名せしき、「順番に質問する方法」の狭い圈を脱却して、むしろ、「家計簿方法」を開拓すべき努力は、依然として成果がない様に思われたのである。

折しも、一日、私の処へ、バーゼルの布商から、極めて若々しい商業手代がやって来たが、其の人は、或る有名な社会民主党の首領の極めて近い親類筋のものであることを、自己紹介し、而して、私に次の様なことを打ち明けたのである。即ち、彼は、其の閑暇を利用して、労働者の地位に就いての統計的調査を遂行し、一には科学に役立ち、又一にはバーゼルの労働者階級の為に資せんとする、燃えるが如き欲望を有している。而して彼は、其のことが、賃銀統計の問題であるべきだと考えたのである。其の青年の大胆な努力が、私には気に入ったのであるが、私は義務として、凡そ一の合理的な賃銀統計は極めて困難な問題であることを、言わざるを得なかつたのである。而して、之を成就する為には、彼には、その、よい意欲以外に、万事が欠

如しているのである。よつて、私は彼に次の様な試みを為す様に提案したのである。即ち、彼がバーゼルの労働者家族の経済計算の、かなり多数を得る為に、それ等の家族達へ家計簿を分配し、其の家計簿を規則通りに且つ正しくつける様に、日々の循環過程によつて統制し、而して、一個年の終りに、是等の家計簿を、有名な範疇規構によつて統計的に整理すると云う方法である。勿論、私は彼に、従来の予算の立て方と、その将来避けらるべき誤謬についても、注意したのである。

私の、此の、後に至り丁抹の統計局によつて採用された方法は、必ずしも、異論のないものとは思わないのである。凡そ、自発的に記帳された計算等なるのは、単に当座限りに誘発されたものよりも、よりよき統計的基礎を与えるものであるが、又その為、常に必ずしも、正しき且つ信頼すべき記入を提供せないものである。然し、よりよきものは、よきものの敵である。而して、私は何故に、此の新鮮な、有益な活動に渴し

ている処の労働力を、利用すべきでなかつたか。其の青年の名は、カール・ランドルト(Karl Landolt)と云うのであるが、彼は火の如き熱心さを以つて、其の仕事に着手し、かくて、私の忠言に応じて、質問紙と計算簿とを記入する為の案内書を、立案したのである。彼は其の後時々、疑問のある場合援助を求めらる為、私の処へやつて来た。而して、彼が数個月の後に職がなくなつた時に、私は彼に、小さい、私によつて当時指導されていた処の、バーゼルの住宅調査の資料を整理する統計局に於いて、一の地位を与えたのである。之は彼に統計技術を熟達せしめんとする目的に出たのであつて、日曜日及び夕方方の時間に、彼は相変らず、彼の労働者訪問を継続することが出来たのである。彼は、其の配布した処の、約八〇の家計簿の中で、若干が規格通りに記入されなかつたことを、嘆息し、加うるに、彼に記入を誓約した人々の処で、第八の月末決算が為された時に、彼は思いがけなくも、バーゼルを去り、かくして、其の美しき希望を以つて企てられた

訪問も、成果を見ずして終る様に思われたのである。

かくも多く失われた労作に就ての失望と正しき悲しみとの感情の裡に、私は一八九四年の早春、バーゼルからカールス・ルーエへ引き越したのである。然し私は間もなく、他の気分に移るべきであつた。それは、一八九一年の「瑞西統計学雑誌」の第三季報に、「カール・ランドルトの「一〇の、バーゼルの労働者家計」が公表されたことによる。私は、少くとも、かくも多数の労働者が、たとい最後の四個月は統制がなかつたとしても、辛棒し続けた様に思われたことを、喜ぶものである。此の喜びでは、又殊に次の様なことによつて、害されなかつたのである。即ち、著者は、彼の論文の緒言に於いて、全体の企てを、彼の独自の創案から、而して、従来の試みの欠点への独自の洞見から出て来たものとして、示したのである。然し彼は結論に於いて、私と二人の、他の人に、「彼等の貴重な忠言と好意ある助力とを感謝したのである。又私が推薦した方法で、ニールンベルグに於いて、自から、一の

の価値ある仕事を遂行した処のアドルフ・ブラウン博士が、公然と真相を指摘した時に、私は沈黙するに至つたのである。ランドルト氏は、予算と経済計算との間の區別を、殆ど了解していなかつたのである。彼は、實際的にも、唯僅かの、而して、未解決のものを、為したに過ぎなかつた。それにも拘らず、彼は、「家計の方法と技術」と云う標題のある、求むる処多き事によつて、他人に呼びかけんと感じていたのである。かくして、此の試みも亦、使用し得る処の、統計上の確定の代りに、彼の方法論上の、一の論難攻撃点を示し、此の論難攻撃点には、科学上の不充分なことが、容易に其の避難所を求めらるものである。

世人は私を、次の様な経験によつて、怒まないのである。即ち、私は永い間、此の事件について、興味を失つて了つていたのである。而して、世人は、私の深い歎息を了解するであらう。此の歎息とは、私が次の様な場合に感受したのである。即ち、総ての、従来の予算と経済計算について大いに企てられ、比較的、批

判的になされた研究は、エンゲルが初めた処であるが、此の巨匠の死によって、中断されて了つたのである。僅か家計簿方法を以つて最善のものとして宣言して以來、少くとも、所謂予算は、此の科学に於いては、福を惹起することを懸念する必要がない。

勿論、若しエンゲルが、彼の業績の、唯一の印刷出版された部分の緒言を、次の様な言葉、即ち「人が昔から、特に青年時代に深く認識した思想を、晩年まで再び放棄することが出来ないことは、独特である。」を以つて初めるならば、此の一文は、又私にも事実として、該当すべきであつた。二三個月以前に、私の雑誌の寄稿者の筆者が、私を訪問した。而して、私に、

一〇年間の、注意深き記帳の上に立脚した処の経済計算の原理を印刷に付することを、請うたのである。此の提案を持ち込まれた場合、その寄稿が、次の様な人から為されたならば、私の喜では一層大であつた。その人と云うのは、元來簿記に精通し、又統計技術に堪能であり、かくして、此の方面に於ける、誤りなき研究

を提出し得るのである。私が再び「理論と方法」に就て、一の技巧的記者に助けられると云う危険が、幸いにも、排除された様に思われたのである。

此の公表に対する、私の協力は、此の著者を、数表の一系列を立定する様に誘致したことに、限られたのである。彼は此の表を初めには予定していなかつたのである。而して、彼が私の請にに応じて、彼の家族事情の表示と、色々の、明白な計算項目を寄附したことに限られた。之以外に、私は、所得を論評する為に、若干の説を作つたのである。支出の側では、同様なことが、自由になる空間が超過を許さなかつたから、私には不可能であつた。

世人は、多分次のことを、驚歎するであろう。即ち、私が、一の、かかる貧しき家計の、一〇年間の経済上の遣り繰りを表示する為に、かかる、多数の表を必要と思つたこと、之である。而して、その理由とする処は、簡単に次の様な事情に求められるのである。それは、凡そ一の家族の家計なるものは、一の完全に均等

に従事する処の生活々動であると云う謬見に、唯一度限りで別れんと欲したことである。ここで云う処の生活々動には、統計的に、一週間、又は一ヶ月間の収入と需要の分量とを確定することによって追付くことが出来るのである。数個月後の収入と支出との、詳細な指示は、全体としては、又個々の需要群に於いて、一の動揺を示すのである。而して、此の動揺は、若し人が全体の、一〇年の期間を総括するならば、稍々平準するであろう。然し此の場合にあつても、少しも消失はせない。若し吾人が全体の一〇年（一二〇ヵ月）に対する月平均支出を一〇〇とすれば、毎月に対する支出は、次の額となつた。

一月	一一〇、三七
二月	八〇、八五
三月	八八、一八
四月	一一三、五一
五月	九五、五二
六月	九九、一一

七月	一三六、二三
八月	七〇、九九
九月	一〇三、〇四
十月	一一〇、九七
十一月	八二、三八
十二月	一〇八、八五

若し吾人が個々の年の計算と、是等の計算に於いて、個々の需要の群団とを眼中に置くならば、尙一層大なる動揺が生ずるのである。而して、是等の動揺は、大抵個々の計算項目の相互的移动に基くのである。是等の動揺は、然し非正常的なものでなくして、正常且つ自然的なものとして看做さるべきである。

然るに、予算を云々する人によって前提された、等しき原則への固執は、現実にあつては、多分殆ど実現されない処である。家族の停滞せる構成にあつても、支出は変化するものである。例えば、一の新なる欲望が発生すること、又は古い欲望が高まること、衣服及び家具の必然的となつて来た填補等、凡そ是等のこと

は、若し収入が増加せなければ、必ず個々の個所に於ける消費に、減少的に作用する。而して、負担の、此の移動、経済力の、此の節約は、全体として、家計が経済的に営まれている限り、愈々明白に表われるであろう。多くの点に於いて模範的として表徴され得る処の、研究の為に立っている人の如くに、正に一の家計は、全体の人口に於ける消費過程の認識に対しては、次の様な仕方に於いて、教うる処多きものがある。即ち、家計は小さい移動についての観察を可能ならしめ、是等の移動は、年々数千の経済に於いて行われ、その合計に於いては、国民経済に於ける財貨の流通に対して、最大の影響を及ぼすものである。

是等の移動は、すでに絶対的に於いて、容易に認め得る。而して、為に、更に平均数及び比例数を計算することを、断念し得たのであるが、このことは、或一定の意義に於いて、又大なる欲望群相互間の関係にも該当するのである。而して、此の關係は、家計統計に於いては、常に一の、大なる役目を演ずるに至ったの

である。然し、吾人は、全体の一〇年間の平均数に、より一般的な意義を認めて差支えないのである。而して、若し此の場合に少くとも比較の可能性が得られるならば、それは全く興味なしとせない。私は之に對する資料を、経済計算から採択し、此の経済計算は、ホフマン(G. Hofmann)が二〇年間に亘って二個の、瑞西の家族の家計簿から得たものである。両方の家族は、経済的には、私の報告者の家族と接近する。Aと云う、一方の家族の戸主は、店員であり、其の妻は香料品を営み、家族の人数は、觀察期間の間に、二人乃至六人に変動したのである。他の家族・Bの戸主は代用教員を勤め、其の家族の人数は五人である。私は次の様な比較数を、かかる比較が存する一八八六年から一八八五年に至る、最後の二〇年間から採ることにした。平均の年支出は、此の時期に於いては、A家族に對しては、二四四五、八一フラン、B家族に對しては二〇三六、四五フランの額となつたのである。是等の数字は、某々家の年平均支出(二四〇七、二二マルク)

より著しく僅かであるが、比較は、このことによつては、殆ど害され得ないのである。その理由は、此の両方の、瑞西の家族は、小さい町で、安い価格で少くとも、安逸の家族と生活の水準の同じ段階に到達していたからである。其の他の点に於いては、各々の、かかる比較は、家計の実相の、唯最も大略の特徴へのみ向けられ得ることを、特に明言する必要はない。需要の範疇に於いては、私はホフマン (Hofmann) の形成に適合せしむる様にしたのである。このことは、次の様な結果となつたのである。即ち、欲望の群団は、安逸の経済計算に於いては、稍々異つて形成されている故に、「色々のもの」と云う見出しは、此の場合、瑞西の計算に於いて、他の個処でもたらされたてもあるう処の若干のものが、「色々のもの」と云う見出しに帰属したのである。このことは、然し、決定的の需要区域に対する支出には、殆ど触れないであろう。欲望の、主なる群団に対する、全体の支出の百分率は、次の如くであつた。

欲望群団	瑞西の家		瑞西の家		独逸の家	
	A	B	A	B	A	B
一、食料及び嗜好品	四六	三	四四	九	三一	三
二、飲物(家庭消費の分)	一	二	一	四	一	三
三、住居費	二一	一	二二	一	二三	一
四、被服費	一一	三	九	二	九	八
五、祭祀費	二		三	四	二	一
六、娯樂費	七	九	三	七	〇	六
七、清潔費及び保健費	二	八	一	九	三	二
八、療養費及び分娩費	一	三	二	三	二	四
九、保険料	一	一	一	一	一六	九
一〇、税金	二	六	七	五	二	一
一一、其の他の費用(贈物等)	一	九	二	五	七	二

是等の数字は、殆ど何等の注解をも、之を必要とせないのである。安逸の家庭の、豊富に發展したる保険、給養及び嗜好物に対する、その比較的僅かの支出、「清潔及び体育」に対する費用を強く強調するに際し、「娯

「樂費」の項目の、完全な後退は、各人にすぐに目につくであろう。然るに、一方に於いては、大抵の、他の項目に於ける近似的一段は、人を驚かすであろう。即ち、包括的の合計項目に於いて、若干の差異が、すでに平準しているのである。かくして、例えば、「家事費」と云う項目に於いては、家賃、煖房及び照明に対する支出が、含まれているのである。家賃だけは、A家族は一年支出の一一、八パーセント、B家族は一二、八パーセント、独逸の家族は一四、パーセントを、夫々要求したのである。個々の年計算にあつては、區別は、一層大となるであろう。一八七六年より一八八五年に至る一〇年の間に、家賃に対する支出は、A家族に対しては全体の支出の九、六から一四、五パーセントへ、B家族に対しては九、二から一七、八パーセントへ、独逸の家族に対しては九、八から二一、七パーセントへ、夫々動揺したのである。是等のことを詳細に觀察して見れば、従来屢々唯一の予算又は一年計算によつて導かれた結論なるものは、残酷にも、其の頸を折る

であろう。

是等三個の例に於ける此例数は、或一定の所得が、当該人間階級に於ける、色々の消費目的へ、事实上、配布される処の、何等かの型を、標置せない。然し、所得は、此の型又は規範に依じて分配されなければならぬのであるが、此例数は、唯可能性を与えるに過ぎないのである。而して、此の可能性は、千の、他の場合には、個々の点で、少しも近似的に到達されないものである。諸例の所屬数を前提とする時、人は、その生存の最少の消費に対しても、かかる典型的の此例数を斟酌するであろうか否か、このことは、甚だ問題である。人間に於ける個性は、消費生活に於いて、最も少く消失するものである。世人が、自来、消費統計の、かくも容易に思われる立定に近寄るに至つた処の期待は、故に、著しく緩められねばならぬ。唯次の様なことだけは、之を認め得るであろう。即ち、消費の活動範圍は、収入が大となる程度に於いて増し、而して、自由形成の範圍は、主として贅沢品の領域に横わるこ

と、之である。

戦後に於いて、従来の慣れた所得事情を变革するに至った変動が、大きく認められなければならぬが、このことに応じて、此の変動が家計の消費面に及ぼすに至った処の影響にも亦、大なるものがある。種々の国民階級を顧慮する消費統計は、かかる時代には、疑もなく、教うる処大なるものがあるであらう。而して、これには、此の統計が、信頼すべき経済計算の所屬數に立脚していることを、其の前提とせなければならぬ。然し、世人が消費統計が与えねばならぬ様に見える処の学説を、正しく理解せんと欲するかどうかは、又別の問題である。

注意深く記帳された家計簿に於いては、精微経済研究に対しては、殆ど尙汲み尽されざる資料が、埋まられて、そのまま眠っているのである。エンゲルは、最後の研究に於いて、かかる帳簿の多數が利用にまで委ねられており、而して、社会の、総ての層からの家族について、多少の差はあるが、よく記帳された家計簿、計算簿等を、撰礦の為に、得ることが如何にして可能であるかと云う、一の方法を、示したのである。今日、彼の労作が継続されるであろうことが、その時期ではないか。其の「方法及び技術」については、今日、眞実に論ぜられている。